

スクラムを組んで青少年健全育成

地域で一体となって青少年の育成を!



青

少年の健全育成のためには、家庭や学校、関係機関などの努力だけでは足りません。

地域で日ごろから子どもたちを温かく見守り、励まし、ときには注意したりすること、有害な情報や環境から子どもたちを守るなど、より多くの人々が様々な地域活動にかかわることが、青少年の健全育成に大きな力となります。今月号では、青少年の育成現場でのご意見を「スクラム」として掲載します。

問い合わせ／生涯学習課（☎581・2121内線532）へ。

有害サイトで被害続出



寄居町青少年健全育成町民会議会長 阿川 甫吉

昨年未から今年にかけて、市内での殺人事件が続いて発生しました。背筋が寒くなるような事件ばかりです。家族とは何なのか、家族とはどうあるべきなのか、改めて考えさせられます。寄居町では青少年の大きな事件もなく、関係する皆様のご協力に深く感謝申し上げます。しかし、今、携帯電話による女子中・高校生の被害が続発してい

ます。昨年の11月に、県内の中学2年生女子(14)が、携帯電話の出会い系サイトで知り合った男の人に、ホテルに連れていかれるという事件が報道されました。6月にも、県内の女子高校生(17)が、芸能人情報サイトの掲示板で知り合った芸能関係者という男に「アイドルグループのメンバーに会わせる」と、都内のホテルに連れ込まれるという記事が載っていました。県警少年捜査課によると、携帯の出会い系サイトにかかわった事件は、昨年10月末現在で43件あり、そのうちのほとんどが児童買春、児童ポルノ禁止法違反、強姦などの性犯罪だったということです。しかも42人の被害者のうち39人が18歳未満だっ

たということですが(埼玉新聞12月20日)。携帯電話は、いつでも、どこでも、誰にでも手軽に電話やメールができる反面、そこには大きな落とし穴があることを忘れてほしいと思います。万が一のときのために常に子どもと連絡が取れるようにしておきたいと考える人が多いと思いますが、「みんなが持っているから」と子どもにせがまれ、安易に買い与えている家庭もあるのではないのでしょうか。社会安全研究財団の調査では、携帯電話を持っている女子中・高校生の12人に1人が出会い系サイトへアクセスしたことがありと答えているそうです。好奇心とスリルを味わいたいと思

ちよつとした行為が、取り返しのつかないことに巻き込まれる可能性があります。このような事故を防ぐには、携帯電話を買い与える時に、子どもとしっかり約束をしておくことです。決められた金額内で使い、出会い系サイトなどには絶対にかけない、他人が嫌がることを話したり書き込んだりしない等。もう一つは、有害サイトへの接続を制限する「フィルタリング機能」を活用することです。「うちの子は大丈夫」と思い込まないで、ぜひこの対策を講じてほしい、かなりの犯罪が防げるはず、と少年捜査課では呼びかけています。



貴重な体験が感動、実践に!



男衾中学校校長 轟 和男

今、働きたいときだけ働く「フリーター」や就職も進学もしない「ニート」と呼ばれる若者が増え、大きな社会問題になっています。そこで国は、文部科学省を通してキャリア教育と実施しました。キャリア教育とは「児童生徒一人ひとりの職業観・勤労観を育てる教育」です。そこで本年度、男衾中学校で

は、地域とともに豊かな心を育む体験活動を通して、主体的に将来の生き方を考える力の育成に取り組みました。具体的には、1年生は5月に「なるには学習会」と銘打って、ケーキ屋さんや保育士の方など、たくさんの方にお話を聞く会を持ちました。次に、8月1日から3日間、町内を中心に23の事業所に協力をいただき、職場体験を行いました。「店に来てくれる人に感謝の気持ちを込めて笑顔で挨拶することが大切だと感じた」という感想からも効果を感じます。2年生は、10月と11月に2回のボランティア活動ということで、駅や神社等の美化活動、保育園などのお手伝いなどを行いました。

た。駅の階段のガムをはがし、「絶対自分はやらない」と思っただけです。3年生は、「①社会を知る②自分を知る③学び続ける大切さ」という3段階のキャリアプログラムで学習しました。指導いただいたのは、男衾在任のセミナーコンサルタントの方です。そして今、進路先を決定し、合格に向かって頑張っています。また、今年は1年生が埼玉県

に結びついていくものと確信しています。



榛名女子学園研修に思う



埼玉県青少年健全育成推進員 松田麻智代

榛名山の中ほどの静かな環境に学園はある。女子少年院という名からは想像もつかないほど、近代的で清潔な印象を受けた。近年、少年犯罪は低年齢化している。そのためには12歳からといった具合に、まだ親の愛情が

必要な年齢の子どもたちで学園はあふれている。現在は生徒80数名、職員45名の24時間体制である。園内には体育館やプール、グラウンド、中庭には池があり鯉が泳いでいた。一見は普通の学校のようなのだが、トイレに行くにも刑務官が付き添い、すべてのドアに鍵が掛けられていた。しかし、壁には女の子らしくレース編みの作品が飾られてあり、教室で勉強している姿もあどけなく、とても重大な罪を犯した人間には思えなかった。少しでも早く社会に戻ることを祈るばかりである。

信頼関係を回復することが更生への近道、大人への不信感をぬぐい去ることから始めるのだ、と園長さんは言う。私たち大人は言動に責任を持ち、子どもたちに接しているだろうか? 子どもだからと馬鹿にして、しかる理由を説明せずに傷つけてはいないだろうか? 子どもも一人の人間であり、人格を持っている。私たち大人が、子どもの不完全な言葉の裏側にある感情を察して接し、何を言いたいのか良く話を聞いて受けとめることが大切なのだと思ふ一日だった。

私は日頃、小・中学生に接することがあり、何気ない会話の中にも、彼らの精神的苦悩を感じる。大人の私たちが乗り越えてきた、誰でも一度はぶつかる壁であろう。親、先生、友達にも本音を言えずに苦しんでいることを私たちが大人は理解しておきたい。そして、話を聞くことが出来る心の広い大人でありたい。

